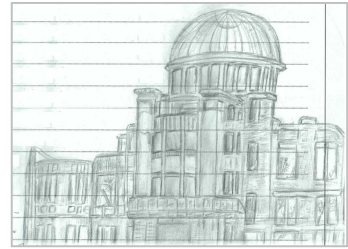


ヒロシマ平和の旅に参加して

ヒロシマ平和の旅サポーター
高校3年生女子

念願の原爆ドーム。「痛々しい・・・」近くで観ることができた私は、感動や興奮するだろうと予想していた感情とは別物の「恐怖」や「怒り」が込み上げました。原爆ドームの前に流れる元安川には、1945年8月6日の原爆投下時、熱線や爆風を浴びた大勢の人々が飛び込み遺体となって、流れ去ることなく川と海とを行ったり来たりする场景を、姿が残った後の「原爆ドーム」は見ていました。現在原爆ドームと呼ばれているユネスコ世界遺産は元は「広島県物産陳列館」で多くの人で賑わう平和な場所でした。広島の中でも美しく豪華な建物は皆に愛されていました。当時に私が生存していたら大好きな場所だったはずです。原爆は物産館のほぼ真上に投下されたため、爆風を横から受けずらく、またたくさんあった窓から通り抜けたため、全壊を免れました。終戦後、残った部分を見ると悲惨な状況を蘇させられるため、壊してほしいという声も多かったが、広島の誇るべき建造物が形を残していることで、戦争の恐ろしさを忘れず二度と起こさないことを誓い、後世に伝える象徴「原爆ドーム」として現在私達も観ることができています。保存にも多くの尽力に感謝の気持ちでいっぱいになりました。



当日描いたスケッチ

もう一つの念願は広島平和記念資料館。外国人観光客のあまりの多さに驚きましたが、第二次世界大戦で被爆国となった日本の惨状を知り、戦争の無い平和な世界を願い、関心をもって訪れてくれて嬉しく思います。私は小学生の夏休みの読書感想文で戦争に関する本を題材にしました。写真等で戦争を知った気になっていましたが、被爆者の大怪我の姿やご遺体の写真はあまりにも辛く息が詰まり、じっくり見学するつもりがいつの間にか早歩きになっている自分に気がつきました。こんな惨劇を二度と味わってはいけないと強く思いました。皆、無言で息を飲むように見入る姿が印象的でした。



2026 ピースアクション in ヒロシマ「虹のひろば」では、平和の取り組み紹介として私は平和クイズの出題を担当しました。出題者とはいえ知らないことばかりでクイズを出しながら私もととても勉強になりました。俳優・紺野美沙子さんの朗読に感動し、私と同じ高校生が描いた原爆の絵は、実際に被爆された方の証言や記憶を聞き取り描き上げた実話・現実が表現されていて素晴らしいものでした。被爆ピアノからは普段耳にしているピアノの音色とは違って、人と同じように被爆した痛みや傷が癒えないことを感じました。

8月6日朝8時から、令和8年平和記念式典に広島国際会議場から参加しました。初めて訪れた広島で大変貴重な経験をさせていただきました。81回目の式典であっても、ご遺族・関係者の悲しみは変わることはありません。

平和記念公園の原爆の子の像へコープみらいより千羽鶴を奉納した際には、以前母が千羽鶴の一部の鶴を折っていたことを思い出しました。母は高校の修学旅行で半日程広島に滞在したそうです。私は初めての広島を2泊3日スケジュールびっしりの充実した中身の濃い毎日をおすごすことができました。



初めての広島はとても暑く、びたっと無風になる瞬間があるのが広島の特徴だと地元の方がおっしゃっていました。広島ならではの体験は、被爆地ということだけではなく、食でも味わうことができました。お好み焼きはボリュームがありソースの味が濃くとても美味しかったです。牡蠣好きな母に広島の牡蠣を食べてもらいたいと思いました。揚げもみじ饅頭は、地元ならではの食べ方で私はとても好みでした。広島れもんらーめんは瀬戸内レモンの存在感が強く感動しました。今回の旅をぜひ母に紹介しながら再び訪れたいと強く思っています。

ヒロシマ平和の旅に参加して

ヒロシマ平和の旅サポーター
高校3年生女子

初めて広島を訪れたのは三年前の中学生の時でした。戦争の悲惨さを物語る原爆ドームや平和記念資料館は何年たっても変わらず広島にありました。平和記念式典では、原爆が投下された8月6日に、多くの人が原爆によって命を奪われた方への追悼だけでなく平和への願いを込めて集まっていることが印象に残りました。原爆投下から81年が経過した現在、戦争や原爆を直接経験した方々は少しずつ少なくなっています。



それでも、式典にはさまざまな世代の人が参加しており、過去の出来事を忘れず、次の世代へ伝えていこうとする思いを感じました。81年という長い年月が経っても、原爆によって失われた多くの命や、被爆された方々が経験した苦しみは、決して過去の出来事として簡単に終わらせてはいけないのだと思いました。

特に心に残ったのは、被爆者の方から直接お話を伺ったことです。原爆が人々の生活やその後の人生にどれほど大きな影響を与えたのかを、より身近に感じました。数字や資料だけでは分からない当時の恐怖や苦しみ、そして平和への思いを、実際の体験を通して聞くことができたことは、今回の学習で得た大きな学びです。原爆を経験していない私たちに、その記憶や思いを伝えることは決して簡単なことではないと思います。それでも語り続けてくださるのは、同じような悲しみを二度と繰り返してほしくない、第3のヒロシマ・ナガサキを生み出してはならないという強い願いがあるからだと思いました。私はその言葉を聞いた一人として、今回学んだことを自分の中だけにとどめず、これからも平和について考え、発信し続けたいです。



今回の平和の旅を通して、私は「平和」とは単に戦争がない状態だけではないと考えるようになりました。一人ひとりの命や人権が大切にされ、互いの違いや考えを尊重しながら生活できることも平和の一つだと思います。大きな争いをなくすことだけを考えるのではなく、身近な人の話を聞いたり、相手の立場を考えたりすることも、平和につながるのではないかと思います。



原爆投下から81年が経った今、私たち若い世代にできることは、まず過去について知り、学び続けることだと思います。被爆者の方々から受け取った記憶や平和への願いを、次の世代へつないでいくこと。そして、平和を当たり前のものでして受け取るのではなく、自分たち一人ひとりが守り、つくっていくものだという意識を持ち続けたいです。